

## 「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.5

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

### ペット専用移動診療車「ワンにゃん号」が初出動しました

平成24年3月にマース ジャパン リミテッド社から寄贈されたペット専用移動診療車「ワンにゃん号」を使用した初めての動物診療活動が、4月18日に大船渡市と陸前高田市にて行われました。

今回の活動は、被災地の獣医科医院に岩手大学の高度獣医療の診断技術を提供することが目的で、岩手大学農学部附属動物病院の佐藤れえ子病院長をはじめ、獣医師・学生7名が、大船渡市と陸前高田市を訪問しました。

最初に訪れた大船渡市の高橋どうぶつ病院では、犬2頭、桜文鳥1羽、ウサギ1羽の診療や獣医療相談を行い、高橋どうぶつ病院の高橋獣医師と今後の治療について話し合いました。

続いて訪れた陸前高田市の熊谷獣医科病院では、「菅原動物病院」の菅原獣医師も合流し、超音波診断装置（エコー）や血液分析装置などを用いて犬の診療を行い、分析した血液データなどを基に、今後の治療方針について飼い主の方を交えて話し合いました。

佐藤病院長は、今回のワンにゃん号初出動を終えて、「ワンにゃん号

には様々な機能が備わっており、様々なニーズに対応できると強く感じました」と話しており、農学部附属動物病院では、今後もワンにゃん号を使用した被災地での動物支援活動を継続していく予定です。



動物診療を行う佐藤れえ子病院長（右）

### 〈平成24年度新入生・在校生向け「震災復興の取組」報告会を開催〉

岩手大学三陸復興推進機構（推進機構）は、平成24年4月12日、岩手大学北桐ホールにて、「平成24年度新入生・在校生向け『震災復興の取組』報告会」を開催しました。

本報告会は、平成24年度新入生及び在校生を対象に、本学のこれまでの震災復興に関する取組を紹介して理解を深めてもらうとともに、今後行われる学生ボランティア活動への参加を呼びかける趣旨で開かれ、新入生も含め学生等約60名が参加しました。

会場では、本学公認ボランティア団体「天気輪の柱」代表の萩原亜弥香さん（工学研究科M2）・副代表の小野寺夏菜さん（農学部4年）と、大槌町及び釜石市で学習支援活動を行った菅原優さん（教育学部4年）・菅原雄輝さん（教育学部4年）が登壇し、それぞれの活動について紹介を行いました。

その後、発表を行った学生4名がフロアからの質問に答える意見交換会が行われました。フロアの学生からは、「個人としてではなく、岩手大学の団体としてボランティア活動を行うメリットは何か」といった質問や、「ボランティア活動をした際、被災された方々とのようにコミュニケーションを取ったのか」といった質問などが出され、それらに対して壇上の学生4名は、一人一人丁寧に回答をしていました。

最後に、推進機構生活支援部門ボランティア班班長の名古屋恒彦教

授（教育学部）から、ボランティア活動を行うに際しての心構えや事前に必要な準備など、ボランティア活動を行う上での留意事項について講話が行われました。

来場した学生からは、「今日の報告会を聞いて、学生ボランティア活動について詳しく知ることができました。今後活動に参加したいです。」といった感想が寄せられました。



意見交換会の様子

# 岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、仮設住民に対してアンケート調査を実施した地域コミュニティ再建支援班をご紹介します。

## 「大槌町仮設住宅住民アンケート調査報告書 ～大槌町の人と地域の復興のために～」を発行

岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門地域コミュニティ再建支援班 井上 博夫

### ●仮設住民アンケート～被災者主体の復興のために～

地域コミュニティ再建支援班のメンバーに加えて、県内外の弁護士、学生のみなさんの協力を得て、大槌町の仮設住宅にお住まいの方を対象としたアンケート調査を行い、2012年3月、その結果を報告書にまとめました。

避難所から仮設住宅への移転が終了した昨年9月、仮設で暮らしておられる全世帯を訪問し、18歳以上の方全員にアンケート調査票を配り、後ほど返信していただきました。仮設住宅の全世帯・全員を対象とした悉皆調査は、当該自治体による住民意向調査を除けばこれが初めてではないかと思えます。

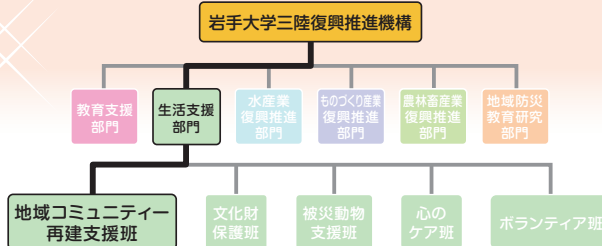
調査では、(1) 家族や住まいの状況、(2) 被害と仮設住宅での生活、(3) 仕事と収入、(4) 避難時の状況と避難所での生活、(5) 行政への要望と生活相談、(6) 復興のまちづくり、について伺いました。

### ●調査結果から見てきたこと

調査結果からは、仮設に入居する際、元のコミュニティがまとまって移転できずにあちこちの仮設団



仮設住宅を訪問しての調査 2011年9月



地に分散し、家族がばらばらになった世帯も多いこと、そして、まだ仮設の新たなコミュニティが十分形成されていない様子がわかりました。また、仮設に対する不満は、近所に店がないことや交通の便が悪いといった暮らしにくさに集中しており、復興に時間がかかることを考慮して交通・店舗・医療といった社会基盤を含む居住環境整備の大切さが確認されました。被災前後の収入と仕事を比べると、特に漁業者・自営業者はそのほとんどが仕事を継続できておらず、被雇用者も半分近くが職を失っている厳しい状況が浮き彫りになりました。そうした中でも、回答者のほとんどが大槌の町に強い愛着を抱き、町に住み続けたいと考えており、仕事と住まいの再生が喫緊の課題であることを強く印象づけられました。



大槌町地域復興協議会全体会で報告書(暫定版)を配布 2011年12月



大槌町仮設住宅住民アンケート調査報告書 2012年3月

### ●息の長い調査をめざして

仮設住民調査は、町が再生される日まで、これからも続けていく予定です。

希望される方には報告書を差し上げますのでご連絡ください。

**連絡先** 三陸復興推進室 TEL:019-621-6629

# 釜石サテライトだより

今回は、平成24年4月3日に久慈市役所内に開設された久慈エクステンションセンターの活動についてご紹介します。

### ●担当エリア

センターが設置された久慈市のほか、洋野町、野田村、普代村の4市町村を担当エリアとして、これらの地域の重要な産業である水産業を中心とした復興支援活動(支援ニーズ調査、商品開発・研究案件の掘り起こし、連絡調整等)を行います。

### ●漁協、企業訪問による現状把握

震災以前より、久慈地域の漁協や加工業者では市町村ごとに特産品を作り、地域をアピールしてきましたが、一部の養殖漁業ではまだ復旧がなされていない主要品目があることから、漁協や企業など



今年のウニ直売会の様子

への訪問を積極的に行い、必要な支援ニーズを把握します。

### ●漁協主催イベントの復活

5月の大型連休に合わせ、漁協主催の朝市や直売会が開催されました。5月3日、2年ぶりの開催となった種市南漁協(洋野町)恒例のウニ直売会は、悪天候ながらも県外からの来客が非常に多く、用意した1トンのウニが完売となる大盛況でした。このような、地域の復興に繋がるイベントについても、センターとして積極的に支援していきます。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、久慈地域の現場窓口として久慈エクステンションセンターがサポートさせていただきます。

**連絡先** 久慈エクステンションセンター  
〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1番1号  
久慈市役所 総合政策部 産業開発課内  
TEL:090-2953-2519 E-mail:kujijext@iwate-u.ac.jp

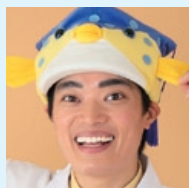
## Information

# 岩手大学開学記念講演会

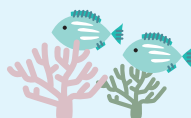
このたび岩手大学は第63回開学記念行事として、被災地の現状と復興への取り組みを広く紹介するとともに、三陸復興への関心を醸成するため、講演会を開催します。

**記念講演 ① 『三陸復興の取り組み等について』**  
釜石市長 野田 武則氏

**記念講演 ② 『海の生き物の生態とそこに暮らす人々との関わりについて』**  
さかなクン(東京海洋大学客員准教授)  
岡本 信明氏(東京海洋大学長)



さかなクン



**日時:** 6月9日(土) 13:00~15:30  
**場所:** 岩手大学総合教育研究棟(生命系) ぼらんホール  
**対象:** 一般(要事前申込)

**お問い合わせ** 岩手大学総務広報課  
TEL 019-621-6006

## 編集後記

新緑の季節を迎え、自然に囲まれたキャンパスでは、散策に訪れる一般の方が多く見られるようになりました。キャンパス内にはめずらしい植物がいくつかありますが、5月に楽しめるのはウコン桜とハンカチノキです。ウコン桜は、薄黄緑色の花を咲かせるサクラの木です。ハンカチノキは、その名のとおり、ハンカチに見える白い大きな苞のついた花を咲かせるダビディア科の木です。

6月には、農学部や事務局周辺にハンギングバスケットも設置する予定です。更に色鮮やかになるキャンパスに、どうぞ散策しにいらしてください。